

シンポジウム：『HIV ソーシャルワークの新潮流 ～地域連携と HIV 陽性者支援医療ソーシャルワーカーの役割機能の再考察～』

近年の医療により、多くの HIV 陽性者は感染前の生活を送ることが可能となった。このことは、今後より多くの高齢者としての HIV 陽性者が地域での生活を長期に渡って送ることを示唆している。また、治療の遅れや日和見感染症によって、重篤な状態にある HIV 陽性者の症例も報告されており、そのような状況にある HIV 陽性者は、急性期状態から脱したあとの地域生活について考えなければならない。より多くの HIV 陽性者が、医療機関を受診しながら地域生活を送っているなか、我々医療ソーシャルワーカーに必要とされる役割機能について再度検証する必要があると考える。

本シンポジウムでは「地域連携」をテーマに、エイズ診療拠点病院医療ソーシャルワーカーによる院内外の支援施設機関との連携の現状と課題についての 2 調査の結果を報告する。

◆対象： MSW、保健医療看護福祉系教育機関関係者（学生も含む）、その他地域の支援者、市民

◆参加費： 無 料（当日、直接会場にお越しください）

◆【東京会場】

・日 時： 平成 23 年 12 月 3 日（土） 14：00～16：30（13：30 受付開始）

・場 所： 弘済会館（鉄道弘済会）『桜』（東京都千代田区麴町 5-1）

◆【大阪会場】

・日 時： 平成 23 年 12 月 10 日（土） 14：00～16：30（13：30 受付開始）

・場 所： チサンホテル 4 階『第 9 会議室』（大阪府大阪市淀川区西中島 6-2-19）

《 プログラム 》

◆【開会挨拶】： 山本 博之（田園調布学園大学）

◆【報 告】：

● 14：05～14：35

『長期療養時代における HIV 診療（仮題）』

演者： 現在調整中

● 14：35～15：05

『エイズ診療ブロック・中核拠点病院 MSW と地域連携～受診前相談実施状況に関する調査から～』

演者：山本 博之（田園調布学園大学）

平成 21 - 22 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域における HIV 陽性者等支援のための研究」（研究代表者：生島嗣）エイズブロック・中核拠点病院医療ソーシャルワーカーによる地域 HIV 陽性者等支援に関する研究 研究分担者：山本博之

● 15：15～15：45

『要介護状態にある HIV 陽性者の長期療養生活支援に関する社会資源・制度の課題～エイズ拠点病院ソーシャルワーカーへの実態調査から～』

演者：清水 茂徳（東日本国際大学／ライフ・エイズ・プロジェクト）

平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」（研究代表者：白阪琢磨）長期療養患者のソーシャルワークに関する研究 研究分担者：小西加保留 研究協力者：清水茂徳

● 15：45～16：10

『臨床の現場から MSW による実践報告』

東京会場報告者：葛田衣重（千葉大学医学部附属病院 地域連携部）

大阪会場報告者：友田安政（横浜市立大学医学部附属病院）

● 16：10～16：30

質疑応答

《 参加ご希望の方は、当日、直接会場までお越しください 》

問い合わせ先： 山本 博之 hiyamamo0314@gmail.com